

## プロフィール



星野 富弘  
ほしの とみひろ

- 1946年 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。
- 1970年 群馬大学教育学部保健体育科卒業。  
中学校教諭になるが、クラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う。
- 1972年 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める。
- 1979年 前橋で最初の作品展を開く。退院。
- 1981年 雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイの連載を始める。  
この頃から全国各地で「花の詩画展」を開催。
- 1991年 東村に村立富弘美術館開館（現みどり市立「富弘美術館」）。
- 1994年 ニューヨークで「花の詩画展」。以後ホノルル、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ワルシャワなど海外でも開催。
- 2006年 熊本県芦北町に、芦北町立星野富弘美術館開館。  
群馬県名誉県民の称号を贈られる。
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞（第一回）受賞。

詩画やエッセイは教科書にも掲載され、詩は作曲され多くの人に歌われている。現在も詩画やエッセイの創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開いている。

### <主な著書>

「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「銀色のあしあと（三浦綾子氏との対談）」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「山の向こうの美術館」「たった一度の人生だから（日野原重明氏との対談）」「ことばの雫」「種蒔きもせず」「いのちより大切なもの」「詩画とともに生きる」「あの時から空が変わった」「足で歩いた頃のこと」

## 星野富弘美術館

1994年、休止されていた星野富弘「花の詩画展」が、熊本県立美術館での開催を境に再開されました。当時、芦北町では、同館の協力体制のもと、ギャラリー開設計画が策定されていたことから、その熊本での「花の詩画展」が契機となり、芦北町に星野富弘の詩画を展示するギャラリーが開設されました。以後、交流が続くなかで、群馬県富弘美術館の唯一の姉妹館として2006年に誕生しました。美術館では、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野富弘の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければと思います。

## 観覧料・開館時間

観覧料	一般	500円 [400円]
	小中学生	300円 [260円]
	幼児	無料
	* [ ] は20名以上の団体、またはJAF会員	
	*障がい者割引有り	

開館時間 9:00～17:00

休館日 第2・4月曜日(祝日の場合は翌日火曜日)、12/29～1/3  
\*その他燻蒸作業等により臨時休館する場合があります。

## 交通アクセス

**車** 芦北ICから県道27号線經由国道3号線で芦北町湯浦へ。  
ヘルシーパーク芦北前 湯町交差点から130m。  
・熊本市から約1時間30分。  
・鹿児島市から約2時間30分。

**電車** 肥薩おれんじ鉄道佐敷駅からタクシーで約10分。  
もしくは、同鉄道湯浦駅下車後、徒歩で約20分。  
・熊本駅から約1時間50分。  
・鹿児島中央駅から約3時間。

**新幹線** JR新八代駅から肥薩おれんじ鉄道乗換え佐敷駅下車。  
同駅からタクシーで約10分。  
JR新水俣駅から肥薩おれんじ鉄道乗換え湯浦駅下車。  
同駅から徒歩で約20分。



# 星野富弘美術館

HOSHINO TOMIHIRO MUSEUM OF ART · ASHIKITA

年間スケジュール  
2018.5 - 2019.5

## 星野富弘美術館

〒869-5563  
熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2  
Tel/Fax.0966-86-1600  
www.hoshino-museum.com



5.15 [火] ▶ 7.22 [日]

## 旅のあかし

同時開催「初夏の展示」

自身初の詩画集『四季抄 風の旅』の新編として出版された『新編 風の旅』に収録されている初期作品と、1982年から約20年かけて描き直された詩画作品を中心に展示するとともに、随筆の一部を紹介します。「初夏の展示」では、初夏の草花を題材とした作品を展示します。

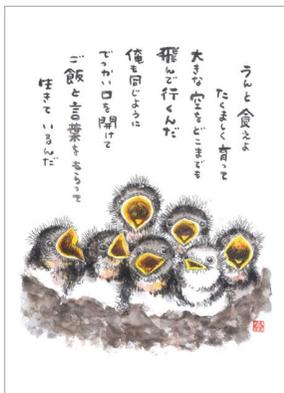
7.24 [火] ▶ 10.21 [日]

## 私にできることはただひとつ

同時開催「夏の展示」



「大切なもの」2013年



「つばめ」2016年

昨年6月に出版された最新刊、花の詩画集『足で歩いた頃のこと』に収録されている、2011年から2016年までの間に描かれた、“今を生きる”星野富弘の詩画作品を中心に展示するとともに、エッセイの一部を紹介します。「夏の展示」では、夏の草花を題材とした作品を展示します。

10.23 [火] ▶ 12.24 [月]

## 私は旅人

同時開催「秋の展示」

黒のサインペン等を使用し、線の掛け合わせによって色、質感、立体感が表現された緻密なペン画を紹介します。1981年から11年間、月に一度、新聞に掲載されたペン画を掲載した花の詩画集『速さのちがう時計』に収録されている作品を中心に紹介します。「秋の展示」では、秋の草花を題材とした作品を展示します。



「すいせん」1986年

12.26 [水] ▶ 2019.3.10 [日]

## この道を行こう

同時開催「冬の展示」

花の詩画集第2弾『鈴の鳴る道』に収録されている詩画作品を中心に展示します。退院後のふるさと東村での家族との日々の生活の営みから生まれた作品の数々を紹介します。「冬の展示」では、冬の草花を題材とした作品を展示します。

## 第12回星野富弘美術館詩画公募展

応募期間： **12.1 [土] ▶ 2019.1.31 [木]**  
 応募部門： 一般の部・小学生の部・中学生の部  
 ※年齢等の応募資格、応募作品数に制限はありません。  
 応募規格： はがきサイズ (10cm×14.8cm) 以上  
 八つ切りサイズ (27cm×38cm) 以内  
 ※その他詳細は、11月頃に美術館ホームページに掲載します。

2019.3.12 [火] ▶ 5.12 [日]

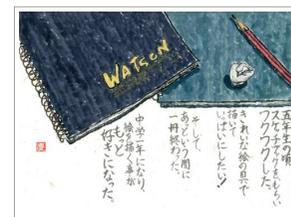
## 第12回星野富弘美術館詩画公募展入賞作品展

同時開催「春の展示」

第12回星野富弘美術館詩画公募展の入賞作品を展示します。全国各地から届く、一人ひとりの体験や感性から生まれる「いのちの尊さ・いのちの輝き」が表現された詩画作品を紹介します。「春の展示」では、春の草花を題材とした作品を展示します。



山崎夢佳「光る花」  
第11回最優秀賞・小学生の部



村上慶真「さあ、描くぞ!」  
第11回最優秀賞・中学生の部



前田希子「大すきなピアノ」  
第11回星野富弘美術館賞・芦北保育園園長



上川桂南恵「熊本愛」  
第11回最優秀賞・一般の部

絵と言葉(詩文)をひとつの画面に収めた「詩画」を、現代芸術の新たな表現形式として広く一般に普及させることを目的に、「詩画公募展」を実施します。星野富弘は、自身の体験から独自の詩画世界を生み出した詩画作家です。一人ひとりの体験や感性から生まれるオリジナルな詩画の優秀作品を顕彰します。